

みや さと 宮の里遺跡出土土器（一括資料）

この土器は、集合住宅の建設に伴い船子で発掘調査を実施した宮の里遺跡の第50号住居址から出土した土師器及び須恵器、灰釉陶器等の土器31点及び破片の一括資料で、平安時代のものです。

須恵器杯はいずれも南多摩G5窯式に相当するもので、うち1点には「甲午」の墨書が認められます。この甲午は干支年と考えられ、暦年代にすると承平四年(934)に相当します。南多摩窯G5窯式の年代は10世紀前半に位置付けられており、甲午年は土器の製作年代と一致するものです。

また、共伴する土師器杯は相模型杯で、年代は9世紀後半から10世紀前半の範囲に収まると考えられます。灰釉陶器はいずれも尾張産で、黒笹90号窯式新段階から折戸53窯式にかけての製品であり、年代的には890年～950年頃に位置付けられます。

以上のことから、これらの土器は年代的に見ても一括性が高く、土器の製作年代と使用年代が明らかとなる土器編年上も極めて重要な資料です。

なお、干支年が記された土器は全国的に見ても類例がなく、非常に珍しいものです。



土器一括



「甲午」銘墨書土器